

合計金 參拾七圓也。

内譯 參拾六圓五拾錢 贈崎玉縣浦和町一四〇大崎辰馬氏(實父)

拾五錢 振替登記料

貳拾錢 爲替料

拾錢 書留料

## 本部狀況

教職員及び會員の任免移動左の如くに候。

新樂先生は昨年十月休職となり、御子息工學士新樂顯理氏本年四月講師を囑託せられ候。昨年十一月樋口琢磨君横須賀重砲隊に入營せられ、十二月に平澤勝君助手として化學部に入られ候。本年に入りては二月白澤幹君母校を辭して上田原蠶種製造所に入られ、四月には齋藤菊雄君、古東幹太君、武井克巳君、五月には長池遊龜君、小見益雄君助手として母校に入られ候。あの外齋藤格次君、大井學君も母校に在勤せられ候。三橋宜夫君は二月に助手を命せられ五月に横須賀重砲隊に第一次勤務をせらるゝとふとと相成候。

在田幹事の異動としては昨年十二月に原田兵衛君上田原蠶種製造所に来られ、本年四月には唐澤正平君、猪坂直一君は上田蠶種會社に、栗原茂君は小縣蠶種同業組合に入られ候。五月になり篠田平三郎君は文部省實業學務局に轉せられ、その後任として、濱井壽夫君來られ候。又小縣郡役所の弓田弘君は朝鮮に行かれその後任として、倉澤美徳君來られ候。又六月に入りて中澤勝也君は昨年十月以來の病氣も癒わて小縣蠶業學校に就職致され、又横山宗治君は家郷にて孔々として蠶種製造業を營まれしも感ずる所あり上田蠶種會社に入られ候。

目下幹事は二十五名益々隆盛と相成り候。

本年度新入學生は養蠶科三十二名、製絲科二十六名、絹絲紡績科十名、選科養蠶四名、製絲一名に有之候

養 蠶 科

鈴木貞治 (山形)	岸 善亮 (山形)	櫻林幸雄 (山梨)
門平潤一郎 (埼玉)	小松茂久 (高知)	西山市三 (群馬)
柏倉豊吉 (山形)	後藤仙彌 (山形)	田口富五郎 (茨城)
丸川一太郎 (山形)	万石安太郎 (岩手)	安島義久 (茨城)
大高雄三 (静岡)	竹内虎夫 (千葉)	母袋良平 (長野)
佐藤愛之 (長野)	佐藤彰三 (長野)	原 清志 (長野)

兼澤 彰 (長野)	柴田 末治 (愛知)	四方 定雄 (京都)
勝又 藤夫 (静岡)	清水 清 (愛知)	川村 吉太郎 (滋賀)
佐藤 重太郎 (愛知)	安仲 勳 (福岡)	金崎 眞英 (滋賀)
是技 良徳 (鹿児島)	八卷 喜一郎 (宮城)	戸村 吉郎 (宮城)
佐藤 道 (宮城)	小口 一枝 (山形)	

製 絲 科

南澤 清 (長野)	仁科 正美 (長野)	湯澤 重敬 (長野)
黒岩 覺 (長野)	小山 茂一郎 (長野)	大嶋 武治 (埼玉)
眞崎 幸一 (佐賀)	塚田 卯平太 (新潟)	甘利 俊吾 (長野)
高島 正己 (長野)	林 直助 (長野)	竹内 勇 (長野)
田中 定男 (長野)	堤 立 (大分)	谷口 稔 (和歌山)
日開 猪澤 (徳島)	田村 齋 (岡山)	酒井 利夫 (愛知)
村山 晋 (長野)	中尾 弘 (三重)	田中 秀吉 (愛知)
清水 巖 (大分)	遠藤 政三 (福島)	蒲生 勇一 (福島)
堀 忠太郎 (福島)	島倉 督造 (山形)	

絹絲紡績科

伊藤 富次 (愛知)

飯島 貞雄 (長野)

杉木 政義 (富山)

後藤 政之 (茨城)

山岸 清保 (長野)

小田切 文雄 (長野)

堀江 文雄 (長野)

上田 忠景 (富山)

井上一郎 (滋賀)

宮澤 茂雄 (群馬)

養蠶科選科

町田 壽男 (群馬)

勅使川原 保 (群馬)

菊地 精一 (岩手)

桂 應祥 (朝鮮)

製絲科選科

尾澤 義朗 (長野)